

第 38 回教員懇話会を終えて

教員懇話会世話人会代表

成田君浩（昭 63・化学）

昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症の流行が続く中で開催を見送ってきました教員懇話会ですが、今年こそは何とかしたいと世話人会では開催に向けて協議を重ねてきました。その結果、今なお対面開催は難しいがオンラインでの開催ができれば、ご自宅から、またこれまで参加できなかった遠方の方も参加できるのではないかとの結論に至り、オンライン開催に挑戦する運びとなり、令和 4 年 11 月 27 日（日）に第 38 回教員懇話会を無事開催することができましたので、この場を借りてご報告いたします。

当日は、はじめに全体会として、東邦大学医学部免疫学講座講師の田中ゆり子先生(H8・生物)から「感染症に立ち向かう免疫のしくみ」、そして分科会として、栃木県立壬生高等学校教頭の高橋伸輔先生(H5・化学)より「高校における観点別評価」、続いて千葉市さつきが丘中学校校長の今井功先生(S59・化学)より「学校現場の諸問題とその解決」についてご講演をいただきました。どのご講演も実際の学校現場で考えていかなければいけないタイムリーなもので、とても貴重な研修となりました。田中先生のお話からは、日常の学校生活、各種学校行事などの実施にあたり感染防止のために知っておくべき事が多くありました。この手のことに詳しくない者にとっては大変貴重なお話でした。実際自分も修学旅行の実施にあたり無知のため、本学健康科学部の林華子先生に相談し、山武地区で唯一通常の修学旅行を実施できた経緯があります。このようなお話がもっと早くに聞けていればと感じました。また高橋先生には、今年度より高校でも実施される観点別評価の実際の対応について、現場の実状と率直なお考えを伺うことができました。従来観点別評価を実施していなかつ

た高校現場における戸惑いやご負担は、かなりのものと思われます。評価の方向性、課題を含め具体的に示していただけたのは高校教諭の皆様方にとっては大変参考になりました。今井先生には学校長としてアイデアを生かした学校経営の実際についてお話をいただきました。管理職だからこそ率先してできること、そのリーダーシップで改革実践されたことは他校で働く私たちにも多く考えさせられるものでした。「授業ができる教員は学級経営も生徒指導もできる。」という言葉に先生の矜持と励ましを感じることができました。分科会後の自由協議も活発に行われ、あっという間の実り多き 3 時間でありました。

尚、教員懇話会は来年度から東京学芸大学附属高校の大谷康治郎先生(H8・生物)を新世話人代表に迎え、より若いメンバーを取り込んで企画運営を行っていきます。今後の教員懇話会はオンライン開催の良さと実習を含む対面開催の両方の良さを生かして実施する新たな方法を模索し、さらに発展していくこと祈念してやみません。教育現場で頑張っておられる卒業生の皆様方には、現住所登録と一緒にメールアドレスの登録もしていただきつつ、会の発展にご協力いただけますよう伏してお願い申し上げます。

最後となりましたが、今年度のオンライン開催にあたり、事務局をはじめとする鶴風会の皆様には、教育関係の卒業生へ連絡等多岐に渡るオンライン開催向けの準備工程に大変ご尽力いただきました。お陰をもちましてメール登録者数も増え、日曜日の午後にもかかわらず 30 名を超える参加者、中には遠方からはじめて参加された方もおられる等、今後に向けての沢山の発展材料を得ることができました。心から御礼申し上げます。